以上は小兒の食物に就き私が多少なりとも注意して居る事柄の一端であります。終りにのぞみまして一言申上げて置きたいと思います。それは、調理者(主に母なる人)の小兒に對する心入れに就てゞありますが、日常食膳に上る所のものは、如何に粗食であるに致せ、調理者としましては、出來得るだけの誠實味と趣味と榮養とを盛ることが甚だ必要であらうと思ひます。食物は單に身體の榮養となる許りでなく、又一面には精神上の榮養とならねばならぬものであります。若しも榮養を盛る其上に誠實味と趣味とが充分に盛つてあるならば、攝取者はこれが爲め精神上善き糧を得るであらうと信じる次第であります。

ロンドンの巡査と子供

私たちは子供のときから、「お巡りさん」といへば、恐いものと教へられ、又た自分の子供たちにも、「そんな事をするとお巡りさんに叱られますよ」などと、つひ言ふことがございます。

然し、これは誠に誤つた考へ方であり、又實際に於ても、斯くあるべきものでは決してなからうと存じます。

この事に就きまして、有名なお話は、英京ロンドンに於ける巡査のことでございます。御承知のやうに、ロンドンでは巡査は一般の人より體格の遙かに優れた大男を採用して、之に民衆保護のため充分なる訓練を施すのです。ですから、「巡査」といふ職業は社會から實に尊敬されてゐまして、巡査自身も高いカルチュアーがありますから、やたらに、威張つたり、不親切な行ひをしたりする事はございません。

彼等は、身の不自由な老人や、か弱い女子供のよい相手であります。荷を負うて惱む年寄りの勞働者があれば、それを扶けてやり、泣いてゐる子供があれば、それを抱き上げてあやしも致します。ですから、ロンドンの子供らは、この「お巡りさん」を恐がるどころか、却て、「大きな小父さん、親切な小父さん」と言つて親しんで居ります。

彼等は子供の面白い遊び相手であり、且つ親切な保護者であります。親たちが子供の惡戯を止める嚇しに、「お巡りさん」を利用する我が國と、全く雲泥の差ではありませんか。

一日も早く、ロンドンの巡査と子供のこの美しい關係を、我が國に於て實現し度いものでございます。